

202) ごろ寝

うたた寝と同様、ごろ寝というのもなかなか気持ち良いものであります。しかしどうも小生にはこの類の経験にはいい思い出がありませんで、これも惨めなお話であります。まだ学生の頃、同級生の美人女子大生と清い交際をしておりました。ある春の日、当時はまだバイクも車も学生には贅沢な時代でしたから、自転車に二人乗りして、郊外の荒川べりまで遊びに行ったのであります。ここの河川敷は麦畑や所々に牧草地のようなところがあって、市民の憩いの場所になっていたのであります。この草むらに二人で腰をおろして、かなりいいところまで来まして、二人でごろりと横になったのであります。スキあらばナニをしようかというスケベ心も当然あったりしてのことのであります。ところが今までは気づかなかったのであります、急に有機物の嫌な匂いがし始めたのであります。誠に不運なことに、私がごろりとしたところには、何と犬のウンチが一塊ありまして、それを押しつぶしてしまったのでした。もうすっかり興が醒めて、彼女は帰ると言い出すし、私は匂いの始末に追われるし、結局この彼女とはこれがエンガチョのもとになってしまったのであります。ウンをつかみながら、運をつかめなかった悲しい物語でありました。